

いのち守る現場から

小川赤十字病院 感染管理認定看護師*
志村 和美



*一定の看護師実務経験と専門教育を受け、審査に合格し日本看護協会から認定を受けることで取得できる資格。
感染症の罹患者等に対し高い看護を実践することや、看護職に対して感染管理の指導を行うことが役割。

これからの季節、インフルエンザに注意を!

新型コロナウイルス(以下、コロナ)による、感染対策も緩和されてきました。

コロナの流行期には、当院でも多くの発熱者、コロナ患者を受入れました。職員やその家族の罹患により出勤できないスタッフも増え、言葉には表せないほど大変だったことを思い出します。

さて、4年ぶりに日常生活が戻りつつある中ですが、皆さんは埼玉県が今年9月にインフルエンザ流行注意報を発令したことをご存知でしょうか。インフルエンザといえば例年、秋の終わりから冬にかけてが流行のピーク。9月に「注意報」が出されるのは、現在の形で統計を取り始めて以来初めてのことです。

インフルエンザの主な症状は、発熱・のどの痛み・咳・関節痛・倦怠感などがあげられます。これはコロナの症状とあまり違わないため、検査しないと判断がつきません。

対策としては、コロナ禍で定着してきた手指消毒や、症状がある方のサージカルマスク着用などがあげられます。これだけでも感染のリスクを減少させることができるので、コロナ禍で日常になった対策を続けていただけたらと思います。

細菌やウイルスは目には見えません。だからといって過剰に怖がることや過小評価することなく、正しい情報をもとに、感染対策をすることが大切です。

ポイント

- 手洗い、手指消毒を継続しましょう!
- 近距離で話す際はマスクを着用しましょう!
- 症状を隠すことなく、必要な場合には医療機関を受診しましょう!
- 正しい情報を得て行動しましょう!

PRESENT プレゼント

書いて！消して！繰り返し使える！ ライティングタブレット

クイズ！ ○○に入る言葉はなんでしょう？

私たちは、いつでも患者さんのもとに血液製剤を届けます。
どんな体制で供給しているでしょうか？

365日○○時間体制

プレゼント応募方法

メール・はがき・FAXでご応募ください。

締切は1月31日(水)必着

当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

いただいた個人情報は、プレゼントの発送およびご連絡にのみ使用いたします。お寄せいただいたご意見・ご感想は個人が特定できないよう配慮したうえ、当支部が行う広報活動に活用させていただく場合があります。

応募にあたって

以下の項目を明記のうえご応募ください。

- ①お名前
- ②郵便番号・ご住所
- ③電話番号
- ④年齢
- ⑤メールアドレス
- ⑥本誌入手場所(例/献血ルーム)
- ⑦ご感想
- ⑧ご要望(取り上げてほしいテーマなど)
- ⑨クイズの答え

*メールの際は、件名に「日赤さいたまプレゼント応募」とご記載ください。

正解者の中から
抽選で5名様！



応募先

〒330-0064

埼玉県さいたま市

浦和区岸町3-17-1

日本赤十字社埼玉県支部

日赤さいたま担当あて

FAX:048-834-1520

Mail:koho@saitama.jrc.or.jp

いろいろな形での寄付方法のご案内

遺贈・相続財産寄付

故人の「財産を社会のために役立てる」という思いを、災害などで苦しむ人々を救う活動に繋げます。
(税制上の優遇措置があります)



赤十字支援型 自動販売機

飲料メーカーの売り上げの一部
が赤十字の活動資金になります。



クレジットカードや 金融機関の口座振替で ご寄付

毎年もしくは毎月手軽に、
ご寄付いただけます。



日赤さいたまは日本赤十字社埼玉県支部が発行する広報誌です。この広報誌は2,000円以上のご寄付をいただいている方へお送りしているほか、市区町村の日赤窓口、赤十字施設でお配りしています。支部ホームページで閲覧することもできます。

赤十字活動の「今」伝えます！ 公式SNS運用中！

日赤さいたま



[特集] 献血のその先に —いのちのバトンをつなぐ私たちの思い—



つなげ、そのちから。



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

埼玉県支部

2023冬

vol.152

献血、それは “いのちのバトン” 皆様の思いとともに 患者さんに届けます。



献血推進

多くの企業や団体の協力のもとに
埼玉県赤十字血液センター
献血推進課 主事
白川 美希

ショッピングモールやイベントの会場で献血を実施するための営業を担当しています。ご協力先と打ち合わせを重ね、バスを配車させること。そして、配車が決定した後もしっかりと目標数を確保できるよう毎日で広報などのフォローをしていくことも大切な仕事です。献血の重要性を丁寧に説明し、多くの方にご協力いただけたときは嬉しいですね。



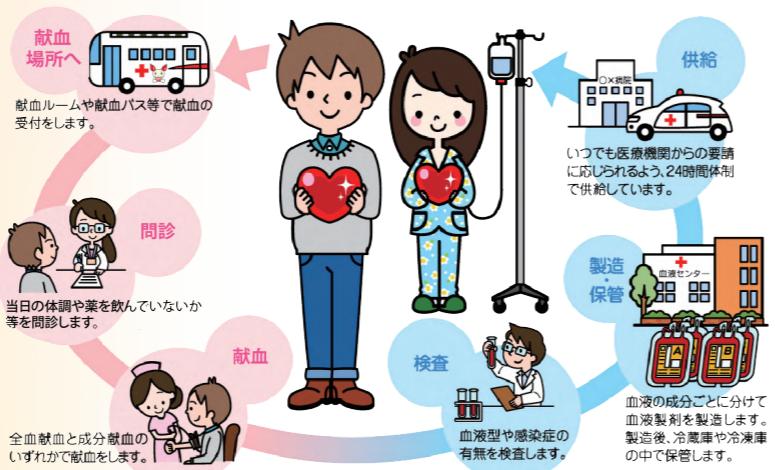
検査・製造

安全な血液を製造する
関東甲信越ブロック血液センター*
埼玉製造所 血液製剤技術専門員
黒土 将徳

365日、献血会場から届いた血液で血液製剤を製造しています。血液製剤の供給にあたっては、安全性が最も大切です。患者さんが安心して輸血を受けていただけるよう、丁寧に検査・製造を行っています。献血してくださった方の思いを無駄にしないよう、一つひとつ血液に注意を払って仕事をしています。

*埼玉製造所(東松山市)では、東京都の一部、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、新潟県、山梨県、長野県で採血された血液の検査・製造を行っています。

冬は血液が不足する季節。
血液の安定供給にあなたのチカラが必要です。
ご協力をお願いします。



献血ルーム

患者さんに代わり
「ありがとう」を伝える
埼玉県赤十字血液センター
大宮献血ルームウエスト 事業課 主事
内田 亜音

献血ルームでの接遇や駅前での広報に加え、より多くの方にご協力いただくための企画を担当しています。血液の安定的な供給のためには、継続したご協力が必要です。「また来たい!」と思っていただけるよう、患者さんに代わって感謝の気持ちをお伝えすることを意識して働いています。献血者の方から「あなたの笑顔を見るたびに、来てよかったです」と思っていただいた時はとても嬉かったです。



供 給

アンカーとして
迅速・確実に
埼玉県赤十字血液センター
学術情報・供給課 主事
立原 優樹

輸血を待つ患者さんのもとにいち早く血液を届けることが私の仕事です。1日2回の定期便のほか、時にはサイレンを鳴らし緊急走行でお届けすることもあります。献血してくださった方から続く「リレーのアンカー」として、私たちの到着を待つ患者さんに迅速・確実にお届けするよう、強く意識しています。



県内の献血ルーム紹介
・ご予約はコチラ

<https://www.bs.jrc.or.jp/ktks/saitama/place/index.html>

埼玉県支部のトピックス

川越市

高まる防災のニーズに応えて
防災セミナー新カリキュラムを
全国で初めて試行!



8月21日、川越市立砂中学校で「赤十字防災セミナー」を開催。24名の教員が新カリキュラムを体験しました。

このゲームは、大規模災害を想定し、避難所で起こるさまざまな出来事を「避難者目線」で疑似体験するものです。

避難所に見立てた平面図と、避難者や出来事を示したカードが配られ、グループ内で役割分担して、多様な年齢や状況におかれた避難者をどのように誘導するか、起こりうる課題にどのように対応していくか考えました。

川越市立砂中学校
(青少年赤十字加盟校)



学校教育における防災の重要性は日に日に高まっています。今回、生徒に伝える側である教員の意識を高めたいと考え防災セミナーを依頼しました。体験の中では、実際に避難所生活をイメージし、さまざまな困難に対処しました。こうした体験で得られた学びをもとに、子どもたちにも自助・共助の重要性を伝えたいです。

秩父市
横瀬町
皆野町
長瀬町
小鹿野町

近隣1都8県の救護班が秩父地域に集結
大雨災害を想定した大規模訓練を実施!

10月21日(土)・22日(日)の2日間、日赤の広域支援体制と医療救護能力強化を目的とした訓練を秩父地域の1市4町で実施しました。

訓練は、大雨により秩父地域で土砂崩れが発生。道路の寸断のほか、ライフラインへの影響が残っている発災3日目の想定で行われ、県内外から駆け付けた救護班が12ヶ所の避難所を巡回。自治体職員などから避難所の環境や要配慮者の情報、必要な支援などについて調査したほか、避難者の診療を行いました。

その後、自治体や医師会などの機関を交えた調整本部会議を実施。各避難所での課題や必要な支援について共有し、関係機関と活動方針を確認しました。



日本赤十字社埼玉県支部
救護・講習課 救護係長
浅見 雅典



埼玉を会場とした大規模訓練は9年ぶりの実施でしたが、地元住民やボランティアの皆様をはじめ多くの方のご協力により、実践的なものになりました。災害に備える私たちの活動は、皆さまからのご寄付により支えられています。託していただいている“いのちを救う”活動を今後も進めてまいります。

こんな
活動も!



水の事故を防ぐために。
ライフジャケット体験会!



いのち救う技術を多くの人に。
浦和レッズの試合会場で
救急法体験会!



優しい心を引き出し、育てる。
小・中・高校生対象
夏休みの宿泊型リーダー研修!